

提 言 書

～森林文化の価値を浜松市民が共有
して高めていくための提言～

2024（令和6）年9月11日

浜松市森林・林業未来構想会議

森林は単なる木材資源の供給源ではなく、社会的共通資本としての役割を担っています。

森林は市民生活の基盤を形成する重要な役割を担っており、そこに森林文化としての価値があります。

森林を活かして森林文化の価値を高めていくためには、林業関係者だけでなく、利活用者としての市民や他産業との関わりが不可欠です。そのつながりを生み出す事業を浜松市全体で推進するために、森林環境譲与税を有効活用することを提言いたします。

具体的には、さまざまな事業者と生活者をつなげるための産業交流と市産材利用の啓発の仕組みをつくる「回転推進事業」と、それらを可能にするために、森と街のそれぞれの拠点を中心に活動地域を拡げる「展開推進事業」の2つについて、事業の進捗・実績等を丁寧に説明し、納税者目線で森林環境譲与税の透明性を確保しながら進めていくことを提案いたします。

浜松市は、木材の生産と消費が同居する都市であり、山・教育・建築の三位一体で森林環境譲与税の使い道を考える必要があると考えます。

森と街の2拠点からの展開とともに、2拠点を結ぶ形で交流を回転させていく動きを生み出すことを目指す提言内容は、全国の他の自治体とは異なる浜松市ならではの属性を生かしたものであると考えております。

【浜松市森林・林業未来構想会議メンバー】

和田 重明（天竜林材業振興協議会長）

石野 秀一（浜松地域材利用促進協議会長）

永田 琢也（浜松地域材利用促進協議会副会長）

中根 康晴（浜松地域 FSC・CLT 利活用推進協議会 CLT 部会長）

松下 克己（天竜こころの森ネットワーク事務局長）

岩崎 敏之（静岡文化芸術大学教授）

永田 友美（オブザーバー／永田木材株式会社）

中根 えみ子（オブザーバー／有限会社アラン）

提言項目

1 産業交流と啓発につながる回転推進事業

(1) 林業の活性化につながる産業交流

①天竜材、FSC 認証材の建築物への利用推進

- ・市内外の建築物（木造化・木質化・家具導入等）への幅広い利用につながる事業への補助をする。
- ・一般住宅のみならず企業や商業施設、公共施設、教育・福祉・医療施設等にも適用する。

②天竜材、FSC 認証材の他産業での活用推進

- ・幅広く新たな連携がなされる事業への補助をする。

③川上から川下まで一貫した取組の推進

- ・木材資源の効率的な活用を行う新たな事業への補助をする。

(2) 担い手確保・人材育成・消費者教育のための啓発

①幼児から児童、生徒、学生の体験学習

- ・新生児の段階から浜松の森林に触れる環境づくりを進める（ウッドスタート）。
- ・普段の教室で学びえないことを森林の中で学ぶ機会を提供する。
- ・浜松市の重要な産業である林業・建築（川上～川下）を学ぶ仕組みをつくる（木育）。

②木材を利用する消費者となる市民や企業への啓発

- ・住宅建築を検討する世代、環境意識の高い企業等への森林環境教育を強化するとともに、森林の見学会への参加等を通じて、天竜美林・天竜材のファン創出を目指す。

③木造・木質化のプロフェッショナルスタッフの育成

- ・森林文化の担い手を育成するセミナーを開催し、一定の知識や技能を習得した林業・製材業・大工・設計等の関係者が、木造・

木質化の相談を受けることができる体制づくりを目指す。

2 2つの拠点を中心にした展開推進事業

(1) 森の拠点からの展開

①森林文化ミュージアム

- ・自然や木に触れて遊びながら学べる場所として天竜の森林全体をミュージアムとみなして森に足を運ぶことができるフィールドを整備する。

②ミュージアムを成立させるためのインフラ整備

- ・森に行くための交通インフラや林道、駐車場等、案内人（コンシェルジュ）を整備する。

(2) 街の拠点からの展開

①森林文化スタジオ

- ・中心市街地の周辺に場所を確保して、森林文化の情報発信を一元化できる場所を整備する。

②森林文化キオスク

- ・天竜材による木造住宅情報、様々な天竜材の製品、天竜材を使用したアート作品に触れる場所について、森林文化スタジオを中心に浜松駅周辺を含む中心市街地に点在させていく。